

## 鎌倉小児保育園京城支部の活動実態

一年報『保育の園』の分析を中心に－

佐竹 要 平

### Activity of Seoul branch for the Kamakura children's home - An analysis of the annual report "Hoikunosono" -

Yohei Satake

**Abstract:** Otojiro Satake had started the child care work in 1896 (29th year of Meiji Era), and had worked on opening the Kamakura headquarters and branches in Lushun, Keijo, Taipei Dalian and Beijing at the time before the world war.

In this study, the Seoul branch, which was established in 1913 after four years of annexation to Japan in 1910 and was active for 33 years until its closure in 1945, The purpose of the analysis is to analyze the situation and clarify the actual situation. As a research method, we use supplementary data such as "Hoikunosono" for the analysis, focusing on the 8th to 33rd issues of the annual report period of the branch. We also analyze related historical data to understand the overview of the home, and strive to grasp the actual conditions of the activities. As a result of the research, Otojiro Satake was to "assimilate" the garden rather than to establish it. Children and adults who are not connected to blood are joined together with the love of God. Kaichi Soda, who became the chief of the second and third chapters, which has made the goal of the Seoul branch to practice this practice both by Japanese and Korean children, It was appropriate. The Seoul branch has been active for 33 years and has raised 1105 children.

**Key Words:** Church, Kaichi Soda, General Government of Korea

**抄録:** 佐竹音次郎が、1896（明治29）年に創めた養育事業は、戦前は鎌倉本部はじめ旅順、京城、台北、大連そして北京に支部を開設して活動を行っていた。本研究では、1910年（明治43年）に日本に併合された4年後の1913（大正2）年に開設され、1945（昭和20）年に閉鎖するまで33年間活動していた京城支部を年報『保育の園』を中心に分析し、その実態を明らかにすることを目的としている。研究方法としては、支部活動期間である年報の第8号から第33号を中心に分析している。また園の概況の理解するため関係する史料も分析し、活動実態の把握に努めている。研究の結果、佐竹音次郎は創設よりずっと「同化」を園の目的としてきた。血の繋がらない子どもや大人同士が神の愛のもと一緒になることである。これを、日本人と朝鮮の子ども同士でも実践することを京城支部の目的としてきた。2代目の支部主任に就任した曾田嘉伊智はまさに適任であった。京城支部は33年間の活動で、1105名の子どもを育てている。

**キーワード:** 教会、曾田嘉伊智、朝鮮総督府

## I. 研究目的

佐竹音次郎が1896（明治29）年7月20日に創設した育児事業の小児保育院は、その後本園の鎌倉に加え、海外に1913（大正2）年に旅順と京城、1915（大正4）年に台北、1932（昭和7）年に大連、1938（昭和13）年に北京に支部を開設している。

『保育の園』は、1906（明治39）年に将来の財団法人設立を目指し、賛助員並びに基本金募集を目的に、一冊25銭で販売を目的として作成された事業報告書『保育の園』がはじまりであり、『保育の園』はその後も園の機関紙（年報）の題として使われ、戦時中は発行を休止したりしているが、1955（昭和30）年の第37号まで発行されている。

本研究では、1910年（明治43）年に日本に併合された4年後の1913（大正2）年に開設され、1945（昭和20）年に閉鎖するまで33年間活動していた京城支部を年報『保育の園』を中心に分析し、その実態を明らかにすることを目的としている。

表1 時期区分

時期区分	年 月	主 任	対応年報	入所児童数
第1	1913（大正2）年8月	佐竹権太郎	第8号	82
	1920（大正9）年5月	須田権太郎	第15号	
第2	1921（大正10）年4月	曾田嘉伊智	第15号	791
	1941（昭和16）年8月	曾田嘉伊智	第33号	
第3	1941（昭和16）年9月	須田権太郎	発行なし	232
	1945（昭和20）年10月	須田権太郎	発行なし	

## II. 研究の方法

本研究では、支部活動期間である年報の第8号から第33号を中心として、『日誌 佐竹音次郎』等を補足的に分析に使用している。また園の概況の理解するため関係する史料も分析し、活動実態の把握に努めている。

## III. 研究結果

### 1. 海外支部設立の背景

佐竹音次郎が、海外に支部設立をきっかけになった背景には、1905（明治38）年7月30日にC・Mハリス（1846～1921・日本・韓国メソジスト教会監督）の「日本人の忠あり、義あるを称揚する事甚し。而て曰く、愛国心深くして、身を失ふことを恐れず。然れども未だ他国の為めにも身命を捧げたる人のあるは多く聞かざる所也。今後は朝鮮の為めにも身を捧げて働く人の輩出せんことを切望す」<sup>1</sup>という説教を鎌倉教会で聞いたことを日誌に書き残している。

また、同年8月9日、「ドクトル・ホイットリー一家族とピタソン師と津田先生の一行来訪…中略…夕飯を共にして鎌倉教会に同伴し、島田三郎<sup>2</sup>君の朝鮮開導説を聞く」<sup>3</sup>と朝鮮に関する話を1週間で2回聞き、日誌にも記載している。

当時の政府が進める朝鮮政策を日本のキリスト教会と同様に影響を受け、構想したのがこの時期ではないかと思われる。

## 2. 京城支部開設まで

1910年（明治43）年8月18日、日本政府は韓国を併合する。

1912（大正元）年は開設から17年、園を腰越から鎌倉大町に移転して7年が経ち、日本各地で慈善書画展を開催している。また、この年、海外での慈善書画展を開催するため佐竹音次郎は10月26日大連に上陸し、12月に書画展を開催している。1913年4月30日に旅順に最初の支部を設立させている。その間2月15日に京城経由で帰国している。再び4月7日に旅順に向けて支部主任になる広田兵吉（23歳）をはじめ、3名の園児（15歳）を連れて出発している。

5月15日に京城入りし、支部主任になる須田権太郎（24歳）を呼び寄せ、書画展を開催している。須田は後に養子となり、佐竹権太郎となる。

### 1) 日誌の記載

7月6日 仁川裁判所所長大谷信夫殿より小児引取方申込まる。<sup>4</sup>

7月8日 大谷裁判長を役所に訪問し、…氏を病床に訪ひ、其女兒四人を收容することとす。

最初の保護児の親は仁川監獄守であり、日本人であった。

8月3日 メソジスト教会の礼拝に列す。兵吉君の受洗の事を相談す。次の日曜に決す。曾田氏の信仰告白あり。

日誌に初めて、2代目の支部主任となる曾田嘉伊智のことを記載されている。

8月12日に両支部主任の結婚式の報告を出している。

発翰 山縣五十雄（元万朝報記者・ソウル・プレス社長）

渡辺暢（京城教会長老・高等法院院長）

松本正寛（弁護士）

関屋貞三郎（朝鮮総督府学務局長）

斎藤音作（京城教会長老・営林庁）

立会人 丹羽清次郎君同令夫人

（組合教会牧師・京城基督教青年会総主事）

阪出鳴海君同令夫人

（京城教会長老・朝鮮総督府土木課課長）

司式 朝鮮京城日本基督教会牧師 井口弥寿男君

在朝のキリスト教関係者であり、尚且つ朝鮮総督府の関係者の名前が列なっている。支部の開設にこれらの方々の支援があったことが窺える。

## 3. 第1期（初代主任須田権太郎）1913（大正2）年～1920（大正9）年 8年間

京城支部は、1913（大正2）年8月11日に京城府龍山区漢江通3ノ71の借家に開設する。支部主任（支部長）は園出身の佐竹権太郎であり、同じく園出身の佐竹豊（養女）を夫婦として、支部の運営を委ねている。翌月から日本人の子は本部及び旅順支部に移している。京城支部は現地の子を専門に收容する施設となった。現地の13歳～10歳の浮浪児5名を引き取って

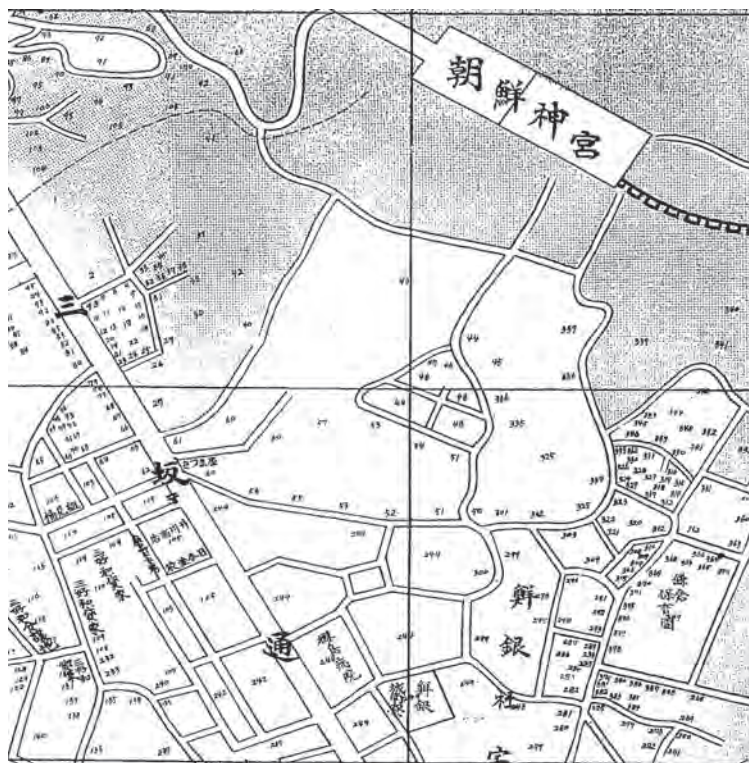
いる。1915年に京城師団（第20師団）に近い元々龍山教会だった建物に移設している。職員として、韓国人の姜振馨が通訳兼事務員として就任している。1916年の製縄器を2器購入して、園児の作業として始めている。

1917年に朝鮮総督府により借用を許可され、京城府龍山区三坂通370番地に支部を移転している。ここは李王朝の典牲署<sup>5</sup>跡で廃屋になっていた。本院を囲んで10棟の附属舎を備えていた。1919年に朝鮮神社（1925年から朝鮮神宮）の参道の近くであった。

1919年3月には、三・一独立運動が朝鮮全土で起こっている。

1920年1月に佐竹権太郎と養子縁組を解消し、5月には支部運営の辛苦と財団法人に対する認識の違いから須田権太郎・豊夫妻が支部主任を退任する。運営を理事（理事長）の佐竹音次郎と主事の姜振馨が当たることになる。その代わりに9月に曾田嘉伊智が京城支部の相談役に就任している。

図 1933年の鎌倉保育園京城支部の地図



出典：三重出版京城支部（1933）『龍山精密地図』

#### 4. 第2期（2代主任曾田嘉伊智）1921（大正10）年～1941（昭和16）年 19年間

1921年4月に曾田嘉伊智・タキ夫妻が京城支部主任（支部長）に就任する。その経緯を曾田は佐竹音次郎追悼集『松籟』に書き残している<sup>6</sup>。

春に園父（佐竹音次郎）が拙宅に三度訪問してきた、三度目の時に、「今朝水野（鍊太郎）

政務総監<sup>7</sup>を訪ねた所、総監より先日支部を視察したところあれでは困る、誰か確かな主任を置けと申されましたが如何にしたものか」と言われて、曾田は、「私たち夫婦には子どもがないので園に飛び込んで朝鮮の子どものために一苦労しようか思う」と答えた。「是非と飛び込んでください、あなたに初めて会ったときから、朝鮮を任せられるのはこの人だと考えていました」と言われた。翌朝、支部評議員の山縣五十雄氏が来られ、「昨夜渡邊暢氏の官舎にて評議会を持ち、私の入園を歓迎する」事で話がまとまった。

1924年姜振馨社会事業功労者で表彰される。1930年曾田嘉伊智が理事（理事長）に就任するが京城支部から離れずに、財団の運営は理事補の佐竹音次郎が当たることとしている。1936年に理事を退任し、理事補として引き続き京城支部主任（支部長）を任される。1938年には総督府より借用していた支部の土地建物が財団に譲渡されている。

1941年曾田嘉伊智、京城支部主任（支部長）を退任し、元山のキリスト教会の牧師代理となる。

### 5. 第3期（3代主任須田権太郎）1941（昭和16）年～1945（昭和20）年 5年間

京城支部主任は56歳になった須田権太郎になった。以前は、旅順支部にいたが、その時は神奈川県職員であった高橋芙蓉も着任する。タキは引き続き園母として支部を支えている。

この時期は、年報を発行していないので、活動実態が分からない。唯一分かるのは、新家族の数だけで、232名と5年間の活動であるが人数が多くなっている。

終戦後の様子は、高橋芙蓉が編集した『創立八十年史』に詳しく書かれている。

## IV. 考察

佐竹音次郎が海外に支部を作った背景には、成長児の活躍の場を開拓したかったことにある。具体的には男児を中心に旅順で果樹栽培に従事する。さらに女兒を中心に台北では幼稚教育の実践、そして朝鮮では現地の孤児に対する育児実践を行っていききたいと構想していた。

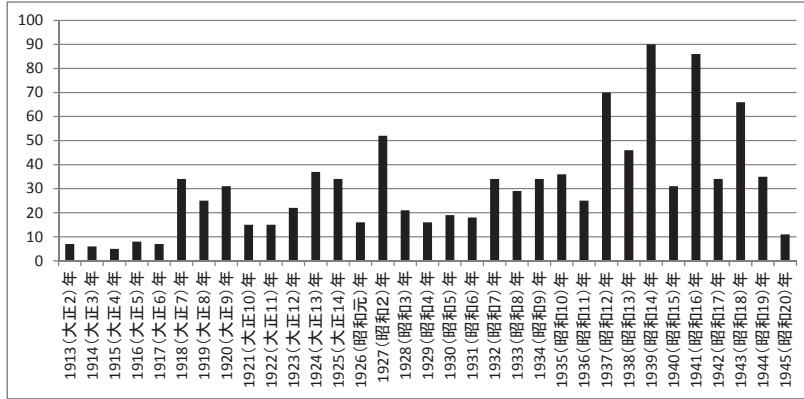
くわえて、佐竹音次郎は創設よりずっと「同化」を園の目的としてきた。血の繋がらない子どもや大人同士が神の愛のもと一緒になることである。これを、日本人と朝鮮の子ども同士でも実践することを京城支部の目的としてきた<sup>8</sup>。

一方で、在朝キリスト教徒の官吏は、1910年の日韓併合以降、民族対立を避けるための融和政策をどのように行えば良いのか模索していた。その時期に朝鮮の孤児を対象とした育児事業が旧知の山縣五十雄との支部開設の相談<sup>9</sup>から始まり、渡邊暢を通じ多くの朝鮮総督府の官吏や在朝教会関係者の支援を得ることが出来た。さらに、三・一独立運動以降にメソジスト監督教会の曾田嘉伊智夫妻が支部主任を就任することは在朝キリスト教関係者にとってまさに適任であった。

京城支部は33年間の活動で、1105名の子どもを育てている。これは本園に次ぐ数となっている。

次の課題として、終戦後、支部の跡地に建てられた「永楽保隣院」と京城支部との連続性の有無を韓国の研究者と共同して確認できればと思っている。

図 年度別・京城支部入所児童数



資料：佐竹信一（1976）『創立八十年史』鎌倉保育園，pp36-39.

資料 京城支部関係年表

西暦(年)	元号	京城支部関係の主な出来事	鎌倉小児保育園・鎌倉保育園の主な出来事
1912	大正元年		12月 大連で慈善書画会開催（外地での最初の実施）
1913	2年	5月 京城で第1回慈善書画会開催 8月11日 京城府龍山区漢江通に京城支部設立 初代主任佐竹権太郎	4月30日 旅順市外田家宅に旅順支部設立。 8月11日 京城日本キリスト教会にて廣田兵吉・金、須田権太郎・豊との結婚式を挙行
1914	3年		1月 台湾で慈善書画会開催
1915	4年	姜振馨が通訳兼事務員として就任 京城府龍山区漢江通の教会跡に移転	12月30日 台北八甲庄に台北支部設立。
1916	5年	2月 総督府内務長官より100円の寄附 3月 製織器を2器購入している	3月 旅順支部を旧ロシア海軍病院に移転する。
1917	6年	7月 京城府龍山区三坂通に支部移転 8月 李王家の下賜金を基金に授産部を開設 11月 封筒作成・名刺印刷作業を開始する	3月10日 台北支部に愛育幼稚園を開設。
1918	7年	3月 独立会計となる	
1919	8年		4月 財団法人成立準備評議会結成。
1920	9年	5月 主任須田権太郎退職。 支部主任を理事が兼務、主事姜振馨 9月 曾田嘉伊智が支部相談役に就任	1月29日 財団法人認可。「鎌倉保育園」と改称 佐竹音次郎初代理事に就任。寄附総額112,919円
1921	10年	4月 曾田嘉伊智が支部主任（園父）・タキ園母に就任	
1922	11年	3月 曾田嘉伊智が理事に選任される	
1923	12年		9月 関東大震災、本園全壊、二原を去い、負傷者多数
1924	13年	1月 主事姜振馨社会事業功労者で表彰される 2月 紀元節下賜金が下付される 4月 曾田嘉伊智夫妻御気療養のため帰国（翌年5月まで）	6月 震災復興国庫補助金30,000円下付 12月 鎌倉本園園舎復興（総建築費45,000円）
1926	大正15年 昭和元年	4月 京城支部 附帯事業として幼稚園を新設	10月 佐竹音次郎恩賜財団慶福会より終身奨励金下付 財団法人の特別会計として「恩賜奨励連綿慰安基金」を設ける
1930	5年	3月 曾田嘉伊智が第2代理事に就任	3月 曾田嘉伊智第2代理事に就任
1932	7年		9月6日 大津市外老虎灘に大連支部設立
1933	8年		8月 鎌倉本園、救護法に基づく救護施設として認可 12月 鎌倉本園、児童虐待防止法に基づく保護児收容施設として認可
1936	11年	4月 曾田嘉伊智が理事に就任	4月 佐竹昇第3代理事に就任
1937	12年	10月 印刷事業を開始する 11月 知的障害児教育をはじめる	
1938	13年	7月 総督府より借用していた支部の土地建物が財団に譲渡される	10月21日 北京市外西區大井胡同到北京支部開設、7名の中国児童收容
1940	15年	10月 始政三十年記念式において曾田嘉伊智民間功労者として表書される 11月 曾田タキ園母、姜振馨主事恩賜財団愛育会より愛育事業功労者として表彰される	6月29日 鎌倉保育園創立45年記念感謝会開催・新聘曾田嘉伊智 8月16日 佐竹音次郎永眠
1941	16年	8月 曾田嘉伊智元山の教会に転任する。タキは園母を継続する	
1942	17年	8月 須田権太郎支部主任に就任する。補佐として元職員の高	
1943	18年		8月 旅順支部の土地建物が軍の返還命令のため閉鎖 12月 北京支部閉鎖
1945	20年	10月 敗戦に伴い、園児150名を朝鮮側の3施設に移管 内地に児童3名と職員家族が引揚げ	大連支部終戦時の園児75名、40名内地に引揚げ 台北支部45名、25名内地に引揚げ

出典：「日誌 佐竹音次郎」「年報保育の園」筆者一部修正

## 参考文献

---

- ・鎌倉保育園（1996）『鎌倉保育園年表と写真で見る百年史』鎌倉保育園.
- ・佐竹信一（1976）『創立八十年史』鎌倉保育園.
- ・佐竹昇編纂（1941）『松籟』鎌倉保育園.
- ・佐竹要平（2017）「鎌倉小児保育園年報『保育の園』による園児の年齢及び地域の分析」『日本社会事業大学研究紀要』日本社会事業大学研究紀要第 63 集, pp79-96.
- ・佐竹要平（2008）「佐竹音次郎と小児保育院 - 事業を支えた家族 -」『キリスト教社会福祉学研究』日本キリスト教社会福祉学会第 42 号, pp92-99.
- ・李元重（2016）「植民地朝鮮における日本基督教会に関する研究」同志社大学神学研究科博士論文
- ・吉村良司編（1976）『日誌 佐竹音次郎』鎌倉保育園.

## 註・引用

---

- 1 吉村良司編（1976）『日誌 佐竹音次郎』鎌倉保育園、p.20.
- 2 島田三郎（1852～1923）政治家・ジャーナリスト、財団法人設立のための賛助会員募集に夫婦で発起人になっている。
- 3 吉村良司編（1976）同掲書、p.22.
- 4 吉村良司編（1976）同掲書、p.78.
- 5 典牲署とは、李王朝の宮中祭祀で使用する供物の家畜を飼育する宗教施設であった。
- 6 佐竹昇編纂（1941）『松籟』鎌倉保育園、pp115-117.
- 7 水野鍊太郎（1868～1949）朝鮮総督府政務総監、斉藤実総督のもと文化政治を指揮している。1911年の第1回育児事業協議会の際の内務省地方局長でもあった。
- 8 吉村良司編（1976）同掲書、p.84.
- 9 佐竹昇編纂（1941）同掲書、p.29.